

2023年 女子体操日本代表選手の選考方法

2023年2月17日

女子体操強化本部

□ 派遣大会（開催地、期日、選手数）

- 1 ワールドユニバーシティゲームズ(中国/成都、7月28日～8月8日、正選手5名/補欠1名)
- 2 世界体操競技選手権大会(ベルギー/アントワープ、9月30日～10月8日、正選手5名/補欠2名)
- 3 アジア競技大会(中国/杭州、9月23日～10月6日、正選手5名/補欠1名)

□ 日本代表選手の選考大会

- 1 第77回全日本体操競技選手権大会 4月20日～23日（以下、全日本個人総合）

- ・全日本個人総合有資格者72名、ワールドユニバーシティゲームズ(以下、ユニバ)枠有資格者12名が予選に出場。但し、ユニバ枠の有資格者にはNHK杯の出場資格を与えない。
- ・予選の上位24名が決勝に出場。
- ・跳馬は1跳躍とする。以下の代表選考については1跳躍の得点を採用する。

- 2 第62回NHK杯 5月20日（以下、NHK杯）

- ・全日本個人総合の上位24名が出場。
※全日本個人総合決勝にユニバ枠の選手が進出した場合、24名未満の出場となる。
- ・NHK杯の順位は、全日本個人総合予選および決勝の得点を加算して決定する。
- ・跳馬は1跳躍とする。以下の代表選考については1跳躍の得点を採用する。

- 3 第77回全日本体操競技種目別選手権大会 6月8日～11日（以下、全日本種目別）

- ・予選は下記①②③より各種目24名が出場。
 - ① 全日本個人総合予選、全日本個人総合決勝の2試合より、各試合の種目別得点が上位8位までの選手に出場資格を与える。
 - ② 2022年世界選手権の種目別ファイナリストに予選の出場資格を与える。
 - ③ 映像審査の上位選手に出場資格を与える。人数は、①②の有資格者を含め各種目24名までとする。跳馬は2跳躍の平均得点を採用する。
- ・決勝は予選の各種目、上位8名が出場。
※2022年世界選手権の種目別メダリストに予選および決勝の出場資格を与える。但し、その選手が予選に未出場、または予選9位以下の場合、決勝進出者を9名～10名とする。
- ・跳馬は予選、決勝ともに2跳躍とする。全日本種目別の予選および決勝の順位は、2跳躍の平均得点を採用する。但し、以下の日本代表選手の選考については1跳躍目の得点を採用する。

□ 日本代表選手の選考方法

1 ワールドユニバーシティゲームズの選考方法

<代表選手 5名>

対象選手から全日本個人総合の上位 5 名を選出する。

<補欠 1名>

対象選手から全日本個人総合の次点者 1 名を選出する。

※全日本個人総合決勝進出者の中に、ユニバ出場有資格者数が日本代表選手数(補欠含む)を下回る場合、全日本個人総合予選の成績より選出する。

ユニバの代表選考に関するタイブレークについて

- 1 全日本個人総合決勝の得点が高い選手を上位とする。
- 2 全日本個人総合決勝の E スコア(4 種目の合計)が高い選手を上位とする。

2 世界体操競技選手権大会の選考方法

<代表選手 5名>

- ① NHK 杯の上位 4 名を選出する。
- ② チーム貢献得点より 1 名を選出する。

<補欠 2名>

- ③ NHK 杯の次点者 2 名を選出する。 ※帯同補欠 1 名・国内補欠 1 名

チーム貢献得点の選出について

代表選考①で選出された 4 選手と組み合わせたチーム得点(5 選手のベスト 3 得点)が最も高くなる選手を 1 名選出する。該当者がいない場合は、NHK 杯の次点者を選出する。

チーム得点(ベスト 3)の算出について

- I ①の 4 選手の得点は、予選 3 試合(全日本個人総合予選、全日本個人総合決勝、NHK 杯)のうち、各種目の最も高い得点を採用する。
- II ②の選手のチーム貢献得点は、予選 5 試合(全日本個人総合予選、全日本個人総合決勝、NHK 杯、種目別予選、種目別決勝)のうち、各種目の上位 2 試合の平均得点を採用する。
※ユニバ枠で出場した選手の全日本個人総合予選および決勝の得点は採用不可とする。

世界選手権の代表選考に関するタイブレークについて

I 選考①③個人総合得点のタイブレーク

- 1 NHK 杯の得点(全日本個人総合の得点を除く)が高い選手を上位とする。
- 2 全日本個人総合決勝の得点が高い選手を上位とする。
- 3 NHK 杯(全日本個人総合の得点を除く)の E スコア(4 種目の合計)が高い選手を上位とする。

II 選考②チーム貢献得点のタイブレーク

- 1 NHK 杯の順位が高い選手を上位とする。
- 2 全日本個人総合決勝の得点が高い選手を上位とする。
- 3 チーム貢献得点に採用された種目数が多い選手を上位とする。
- 4 チーム貢献得点を上位 3 試合の平均得点で再計算し、その得点が高い選手を上位とする。

3 アジア競技大会の選考方法

<代表選手 5 名>

世界選手権代表 5 名および帯同補欠 1 名を除く、NHK 杯の上位 5 名を選出する。

<補欠 1 名>

世界選手権代表 5 名および帯同補欠 1 名、アジア競技大会代表 5 名を除く、NHK 杯の次点者 1 名を選出する。

アジア競技大会の代表選考に関するタイブレークについて

- 1 NHK 杯の得点(全日本個人総合の得点を除く)が高い選手を上位とする。
- 2 全日本個人総合決勝の得点が高い選手を上位とする。
- 3 NHK 杯(全日本個人総合の得点を除く)の E スコア(4 種目の合計)が高い選手を上位とする。

正選手から補欠選手への交代について

女子体操強化本部会から提案を行い、JGA 理事会等で決定する。

その他

- ・各代表選考会において、国籍および年齢等の参加条件を満たす選手のみを選考対象とする。
- ・上記の選考方法では順位が確定しない場合は、強化本部長の提案により、選手選考委員会で決定する。
- ・全日本選手権(個人総合・種目別)の予選通過に関するタイブレークは大会規定に準ずる。